



# 皆川

千歳市民憲章シンボルマーク

みながわ・ひろし

# 浩

さん



表彰式で、千歳市民憲章推進協議会の山田律子会長から表彰状を受け取る皆川さん

### プロフィール

■ 皆川 浩 (みながわ ひろし) さん / 59 歳 / みどり台北在住 / 高校卒業後、京都の芸術大学へ進学し造形全般について学ぶ / 大学卒業後はテレビ業界に就職し、放送デジタル化 CG システムを立ち上げる / 色彩コーディネーター

今年度、《千歳市民憲章の制定40周年》を記念して、千歳市民憲章推進協議会がシンボルマークを募集しました。応募総数124点の中から最優秀賞を獲得した、皆川浩さん。市民憲章が大切にしていく人のつながりや美しい自然を、市民の皆さんが親しみやすく、わかりやすいシンボルマークとして表現されました。12月26日に道の駅サーモンパーク千歳で行われた表彰式に参加した皆川さんに、お話を聞きました。

### ●受賞したときの気持ちは

「応募は30から40作品ぐらいだと思っていましたので、応募総数124点の中でトップだと聞いた時はとても嬉しかったです。市のホームページを見かけたのがきっかけ

でしたが、すでに締切の4日前でしたので、正直、応募するか悩みました。それでも、千歳に居を構えたのだからという思いと、「これも何かの縁かな」という思いから、時間がない中で、参加することを決めました。」

### ●作品のプロセスやコンセプトは

「デザインとは情報や要素をできる限り取り除き、最もシンプルな形と独自性を追求するものと考えています。募集の課題は、『人と人のつながりの大切さ』を表すことでしたので、独自性を出すために、3つの《人》の文字をつなげてみました。色は、自然を表し調和を意味する《緑色》、大地を表し安定を意味する《茶色》、清流を表し信頼を意味する《青色》

### 千歳市民憲章シンボルマーク最優秀賞が決定

## 「デザインとは、最もシンプルな形と独自性を追求すること。」



の3色を使用しました。すると、面白いことに、偶然、北海道の形が浮かび上がりました。その中央に太陽をイメージした丸を配置し、右側をもう一つの丸でくり抜くと千歳の頭文字である《C》になり、北海道の玄関口でもある千歳の位置を表します。さらに、目を細めて見るとマーク全体が真上から見た航空機の形に見えるのです。」

### ●デザインへの思いは

「中学、高校時代に新聞コンクールや文化祭の展示部門で奇抜な発想が評価され優勝した経験や、美術が得意だったこともあり、京都の芸術大学へ進学しました。大学では、写実絵画の第一人者である青木敏郎氏と出会い、フェルメールなどの古典絵画に魅了され

ました。「絵画とは自然を逸脱せず、なおかつ人工美を追求する」と教えていただいた言葉が、今でも忘れられません。学生時代はプロの画家への憧れもありましたが、アルバイト先のスーパーで商品のポップ（値札）をデザインした際、売上げがアップし、感謝されたことがあります。そこから、仕事として、作品を創り出す喜びを実感し、デザイナーとしての道を歩みはじめました。」



「デザインは、課題を解決するための手段のひとつ」と語る皆川さん。複雑化・多様化する現代社会においては、シンプルさを求めるデザイン思考を持つことも大切かもしれません。」